

森林・建築セミナーで学生が感じたこと

「建築学科ではRC，S造について学ぶ授業や研究室はある一方で，木材の性質について学ぶ機会はほとんどありません」。これは，道内の大学工学部で建築を学ぶ学生A君が書いた文章からの抜粋です。A君が置かれた教育環境は，大学によらず多くの建築系の学部に通じています。このような状況を少しでも改善し，建築系の大学生に北海道の林業・林産業を知ってもらうことを目的に，2016年から「森林・建築セミナー」が開催されています。これまで本誌ではセミナー主催者にその開催概要を報告していただけてきました。今回，2019年度セミナーに参加した学生が提出したレポートの中から，学生の生の声をいくつか抜粋してお届けします。なお，文章は語尾等以外，極力原文のままとしました。

(建築：建築系学科・研究室，森林：森林系学科，B4：学部4年，M2：修士2年)

◆森林・林業について

○林業全体の底上げのためには「木を育てそれを建築材料として使う」という観点でのアイデアや取り組みが今後増える必要性があることを痛感した(建築M2)。

○森林に関わる人たちの若い人への期待や熱い想いを感じ，背筋が伸びる思いを持った(建築M2)。

○北海道には素晴らしい資源がたくさんあり，それらを今まで育ててきた先代の方々の知恵と知識があることなど，北海道の林業のポテンシャルもたくさん感じた(建築M2)。

○木が私の手元に届くまでに，とても長い時間と多くの想いが詰まっていることを再認識した(建築B4)。

◆木材工業について

○木材加工工場に積み上げられていた丸太の数に驚いた(建築B4)。

○化粧合板の最終的に貼り付けられるスライス単板がこんなにも薄いかと感動した(森林B4)

○工場の見学では，人の多さに驚いた(建築M2)。

○木材は面白いものだということがよくわかった(建築B4)。

○同じ材質，同じ断面の試験体であっても節によって壊れ方，強度が異なることが新鮮に思えた(建築B4)。

◆建築について

○木材・木造は素材の美しさがそのまま出せるのが魅力だと思った(建築B4)。

○木質構造の建築の最先端では次々と新たな技術が生み出され，新たな木材の可能性を発見することが試みられているということを見ることができて感動した(建築B4)。

○木には季節や時間の移り変わりとともに姿を変えるからこそ味があり美しいと感じるという強みがあり，経年劣化とはまったくの別物であり，本物の木材にこだわることの良さや大切さを知ることができた(建築B4)。

○建築というのは，木を育て管理している人，それを建材にする人，建材としての品質・性能を確認・向上させようとしている人，設計する人，施工する人など，業界を超えて多くの人がつながり，協力し合っていて成り立っていることを実感した(建築M2)。

○カラマツを構造材として使用した道内の建築をいくつか見学したが，とても美しく感動した(建築M2)。

◆これからへの思い

○私が入社するハウスメーカーで道産材を商品として使用できるよう提案したい(建築B4)。

○大断面集成材等，北海道の木材が大きな建物に活用されていくよう自らも働きかけていきたい(建築B4)。

○木や木材産業の良さについて理解している人が少なく，この点を改善するため，知ってもらう機会を増やすべきではないかと考える(建築B4)。

○セミナーでは日本の林業の問題点だけでなく，多くの希望ももちろん見つける事ができた。これからは，木が与えてくれる有形無形の豊かさを学術的に証明し，世の人々の注目を集めること，人々が森の近くに訪れた際に森が与えてくれる豊かさを体感できるソフト，ハード両面の整備，そして，林業に携わる人達が物心両面で豊かになるための仕組み作りが重要になる。私は木造建築が好きだし，持続可能な社会作りについて学びたいと思っている(建築M2)。

(編集：菊地)